

/ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2018No.103】(HP 収載)

分類：CD

作曲家：J.S.Bach

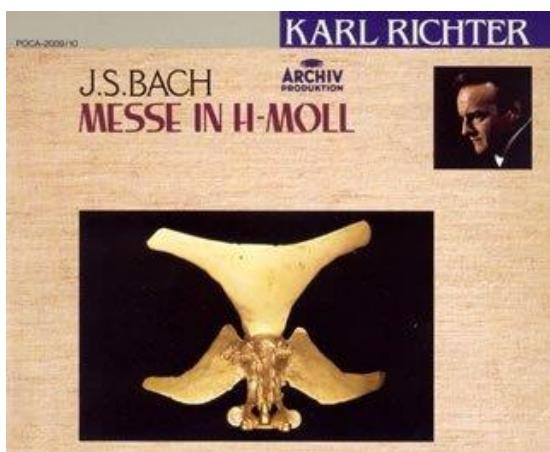
曲名：ミサ曲ロ短調

演奏：カールリヒター指揮ミュンヘンバッハ管弦楽団・合唱団

発売：ARCJEVE SPECIAL

No. : POCA-2009/10

概要：



ソリスト陣は次のとおりです。

マリア・シュターダー ヘルタ・テッパー エルнст・ヘフリガー

キート・エンゲン フィッシャー・ディスカウ

この他にトン・コープマン指揮ベルリンフィル演奏のBPODCHとプロムシュテット指揮のゲヴァントハウスの BS 放送録画、およびゲオルグ・ピラー指揮ゲヴァントハウスの DVD (TDK TDBA-0013) がありましたので聴き比べてみました。

このリヒター盤は、ロ短調ミサ曲の定番と言ってよいほどのもので、ソリスト陣の実力派揃いで、アナログマスターからのリマスターCDですが、アナログマスターの味わいが残っています。

トン・コープマン指揮ベルリンフィル演奏の BPODCH は、コープマン自身がオルガンのパートを受け持ち、独特の指揮で健在ぶりを示しています。音質は良くも悪くも大ホールの演奏ですので、他の二つとは音響上の印象が違います。

プロムシュテット指揮のゲヴァントハウスの BS 放送録画は、聖トマス教会のライブ収録でプロムシュテットの抑制の効いた指揮の下、滋味のある演奏は展開されます。ゲオルグ・ピラー指揮ゲヴァントハウスの DVD は、アルトをカウンター・テナーが受け

持ち、合唱の女声パートは少年合唱団という構成で、画質はそれほど良くありませんが、音質は良く、聖トマス教会のライブ収録の雰囲気が伝わってきます。

こうやってリヒター盤を現代の演奏と比べてみると、決して色あせておらず、CD化されても、当時の演奏の実力と録音の良さが残されています。

以上